

平成 24 年度 家勉充実プロジェクト実績報告書

1 学校名

浜田市立第二中学校

2 研究の概要

◎研究主題『自分から進んで家庭学習に取り組む生徒の育成』

学習へ向かうための意欲を高めることをねらいの中心として、研究を進めた。

(1) キャリア教育の視点から学習意欲の向上を図る取組

① 家勉講演会の実施

本校で初となる家勉講演会を10月に開催した。講師として、首都大学東京・特任准教授であり、中学生向け図書「夢を持ってはいけませんー自己達成力を身につける」の作者である佐々木宏先生をお迎えした。今、求められている『人財』の話から、今、すべきこと、自分の力を生かすこと、学ぶことの大切さなどをお話していただいた。本校生徒に加えて、保護者、校区内の雲雀丘小学校6年生児童、他校の教職員の参加があった。

② ワークシート『7日坊主宣言』の活用を通じた取組

講演会の事後指導として、佐々木先生の提案によるワークシート『7日坊主宣言』を実施した。このワークシートは7日間の学習計画・記録用紙で、7日間、家庭学習を頑張ってみようというものである。振り返り際にはペアコーチングを行い、対話を通して、前日の家庭学習を振り返り、その日の家庭学習を決めていくものである。講演会の事後指導以外にも、2・3学期の期末テスト前、1年生では学力診断テスト前でも実施した。1年生では、『7日坊主宣言』を媒介とし、日々学習の振り返りをさせながら、テスト前の学習指導を自主学習ノートの指導を通して行った。具体的には、テスト前の1週間を自主学習ノート提出強化週間とし、学習したノートのページ数をグラフで表したり、優れた自主学習ノートのコピーを掲示したりするなど、学習の雰囲気や学級全体で盛り上げた。

③ NHKティーチャーズライブラリー『あしたをつかめ』を活用した取組

2年生では高校調べの事前学習としてDVDを3回、特別支援学級では自立活動の進路の学習の一環として1回視聴した。生徒があまりなじみのない職業の内容やその仕事に就いている人の仕事に対する考え方を聞き、働くことの意味を考えることで、自分の将来を考え、学習に対する意欲の向上につながるようにした。

④他の学習と関連づけた取組

全校生徒対象の人権・同和教育の講演会の事前学習で絵本『ひらがなにつき』を題材とし、識字学級に対する理解と「学ぶこと」の意味に視点を置いて授業を行った。講演会の講師の先生にも事前学習の内容をお伝えし、事前学習を踏まえたお話もしていただき、さらに理解を深めていった。また、3年生対象の地域で働く先輩を招いた講演会を行っ

た。地元の警察署、病院で仕事に従事されている方のお話を通して、自分の将来を考え、学習意欲の向上につながるようにした。

(2) 学習の手引きの作成と宿題の提示の工夫

生徒が何を勉強したらよいか自分で見つけることができるようにするために、『学習の手引き』を配布して家庭学習の仕方や内容を具体的に示した。また、帰宅後の家庭学習の時間の見通しを持たせるために、各教科の宿題の内容とそれにかかる時間を教科連絡黒板に書くようにした。

(3) 情報発信と小中連携による推進体制づくり

研究部を中心に研究手法や内容を示し、各学年でさらに広げて取り組む体制を取った。

家勉講演会の内容やワークシート『7日坊主宣言』を使った取組とその結果を、懇談会や学校だより、学級通信で紹介したり、地区懇談会で話したりした。文化祭においては、講演会の内容や生徒の感想などを掲示物にまとめ、生徒はもちろん、保護者、地域の方にも見ていただいた。また、校区内の3小学校と一緒に、学習の手引き『家庭を学びの場に』を発行した。各校の学力向上担当者が集まり、二中校区として共通のものを作成し、子どもたちだけでなく保護者へも家庭学習の大切さや取組方法がわかりやすいものとなるようにした。家庭学習の詳しい内容を盛り込んだ手引きは各学校独自に作成したが、校区内の小学校間において基本線を統一したものにし、中学校への連携がうまくとれるようにした。

(4) その他

研究成果の検証方法として、生徒の感想、学習に対する意識を把握するための学習アンケート（6月実施）・学習時間調査を実施した。

3 研究の成果

家勉講演会を通して、キャリア教育の視点からも重要である、「人はなぜ学ぶのか？」を具体的にわかりやすくお話しいただいた。次は、生徒の感想の一部である。

- ・自分では「指示待ち人間」とわかっていても今まで変えることができませんでした。でも、今日の講演を聴いて、『人材』から『人財』に変える方法が見つかったような気がします。「家勉」は勉強の中でも楽しい勉強なんだと思います。
- ・家庭学習に対する気持ちが大きく変わったかなと思います。家庭学習は言われてするものではなく、自分でアンテナを立



てる「自ら取り組む」ことが大切だとわかりました。そして、その主体性を1つ持つか持たないかで、勉強の仕方が大きく変わってくると思います。

- ・勉強をすれば、視野が広がるということを聞いた以上、勉強をしないわけにはいかないので、勉強をして視野を広げて、進路に生かしたいと思います。

感想からうかがえるように、講演会の話に刺激を受け、自分の将来を見通し、自ら進んで、意欲的に学習に取り組もうとする気持ちを感じられた。

その後の7日間、ワークシート『7日坊主宣言』を利用してペアコーチングをし、また本校で作成した学習の手引きを紹介するなど、家庭学習を継続するための意識づけを図った。(別紙資料1)

以上の取り組みの結果、今年度の6月と、講演会直後の平日7日間の学習時間を比べると、個人差はあるものの、生徒の約7割の生徒の学習時間が増えていた。中には、6月の調査で0分であった生徒が『7日坊主宣言』をしていた7日間、毎日60分以上していた。これらの例からも、普段より家庭学習をしていない生徒にと



って大きな刺激を受けたことがうかがえた。次は、『7日坊主宣言』の生徒の感想の一部である。

- ・シートがあるときとないときで、勉強する時間・やる気が変わった。
- ・意識して勉強することができました。
- ・1週間目標を書き、自分があまりやってないことに気づいた。
- ・目標を決めて取り組むと、いつもよりやる気が出るかなと思いました。
- ・この1週間を通して、きちんと意識すればできるんだなと思いました。

さらに、『7日坊主宣言』の1ヶ月後に行われた期末テストに向けた家庭学習で、『7日坊主宣言』を実施した効果があったかというアンケートに対して、約6割近くの生徒が「あった」または「どちらかといえばあった」と答えた。次は、生徒の感想の一部である。

- ・自信がついて、悩まずできた。
- ・中間テストよりは取りかかるのが早かった。
- ・テレビを見ながら勉強することが少し減った。
- ・時間と質が変わりました。
- ・家庭学習の時間が増えた。

また、2回行った学習時間調査の結果は、次のとおりである。学年によって差はあるものの、6月の調査と比べて講演会後は、10～20分、毎日の家庭学習の時間が増えた。

< 6月の調査 >

学年	1年生	2年生	3年生
1日あたりの学習時間 (単位：分)	41	32	64

< 10月の調査 >

学年	1年生	2年生	3年生
1日あたりの学習時間 (単位：分)	49	38	83

さらに、1年生で行った2回の学力診断テスト前に行った学習の雰囲気高めるための取組の結果、テスト前に毎日平均90分近く学習をし、学年平均点で結果を残すことができた。1回目と2回目の5教科の学年平均を比べると、およそ15点上げることができた。

DVD視聴や進路講演会を通して、知っているはずの職業でも、新しい発見をすることができた。いろいろな職業によって自分たちが支えられていること、自分の夢を叶えるためには努力が必要だということを感じに書いた生徒もおり、生徒の職業観を刺激することで学習の意義を自覚させ、学習意欲を高めることができた。

4 課題と今後の展望

課題として、テスト前の家庭学習は目標が明確であるため取り組みやすく、学級全体が学習の雰囲気にもなりやすい。その結果、家庭学習の時間の増加につなげることができた。しかし、テストが間近にないときは意欲を高めることが難しく、なかなか家庭学習に取り組めていない。講演会等で家庭学習に対する意識が高まりはしたが、継続させることが難しかった。普段の家庭学習の習慣化に力を入れていく必要がある。家庭学習は保護者の理解と協力が不可欠である。生徒の家庭を巻き込んだ取組をいかにしていくか、今後の大きな課題である。また、今年度取り組んだ学習の手引きの利用について、宿題の提示の仕方の工夫については、今後も取り組んでいき、検証をしていきたい。

今後の展望として、DVDの視聴を通して、自分の将来・進路を考えるきっかけ作りにはなったが、現在の自分自身の生活を振り返るまでには至らなかった。自分自身の将来を見通し、日々の学習の積み重ねがいかに重要であるかを生徒自身が理解していくために、キャリア教育の視点においた授業を適宜行っていきたい。また、可能であれば佐々木先生に2年目の講演をお願いし、今年度の継続的な取り組みが展開できたらよいと思う。その際、PTAの組織を利用し、学校・家庭が連携し、家庭学習が充実することを目指したい。